

五街道と江戸時代の宿駅

江戸時代、軍事上と経済上の目的で整備された大きな五つの街道で江戸日本橋を基点にしたものである。ここに掲げた図は、そのルートと宿場(宿駅)である。五街道につく主要街道として、水戸街道も掲げた。なお、宿駅・宿名は時代とともに変わったものも多く、出典や記録によって異なるが、比較的是っきりしたものを掲げた。

◎東海道

江戸日本橋・品川から京の三条大橋に至る。「東海道五十三次」と呼ばれるように、53宿、約492キロの天下の幹線道路であった。

◎中山(仙)道

板橋・高崎を経て碓氷峠を越えて信濃に入り、追分から塩尻を経て美

濃に入り、近江の草津で東海道の合流する。江戸と京都を結ぶ内陸路で、全長約583キロあり69宿。

◎甲州道中(街道)

江戸日本橋から内藤新宿・府中・笹子峠を経て甲府に至る。なお甲府から中山道に合流する下諏訪までも含めて甲州道中と称する。

◎日光道中(街道)

江戸日本橋から千住・宇都宮を経て日光に至る。日本橋から宇都宮までは奥州街道と同じ道。

◎奥州道中(街道)

江戸と奥州を結ぶ基幹街道。千住から宇都宮までの17宿は日光街道と重なるが、これに白川までの10宿は幕府道中奉行の管轄下におかれた。ここには、福島までを掲げた。

